

避難の心得

避難時には安全な服装・履物で

長靴は、中に水が入ると歩行が難しくなるので運動靴を着用しましょう。
強風であおられ転倒する可能性があるため傘は指さずに雨がっぱを着用しましょう。



近所へも目を向けましょう

災害が発生するおそれがある時は、隣近所に声をかけ、協力し合って安全に避難しましょう。



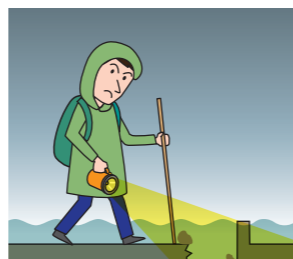
原則として車での避難はやめましょう

車での避難は事故や渋滞が発生したり、車ごと浸水するおそれがあります。特別な事情がない限り徒歩で避難しましょう。



夜間の避難は危険！

夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。暗くなる前に避難しましょう。

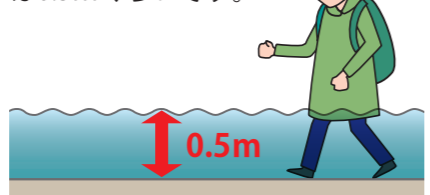


やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

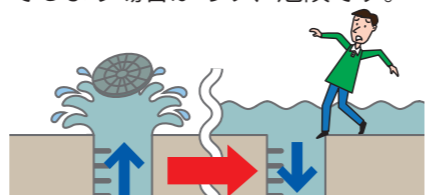
長靴はぬげる危険があります。



人が歩ける深さの目安は0.5mくらいです。



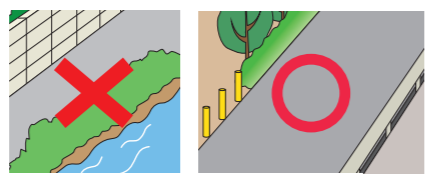
マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があります、危険です。



車は約30cmの浸水深で走行困難になります。



狭い道、川沿いは避け、できるだけ広い道を歩きましょう。



氾濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。

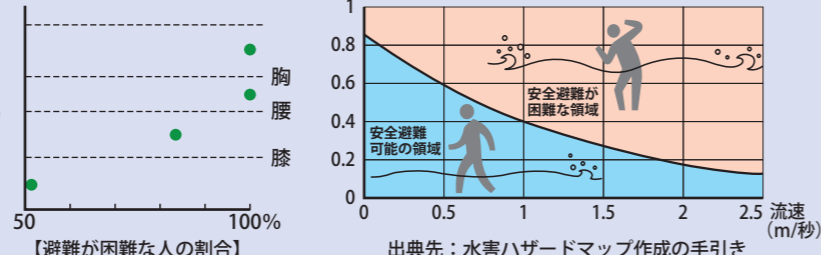


避難は浸水する前に！

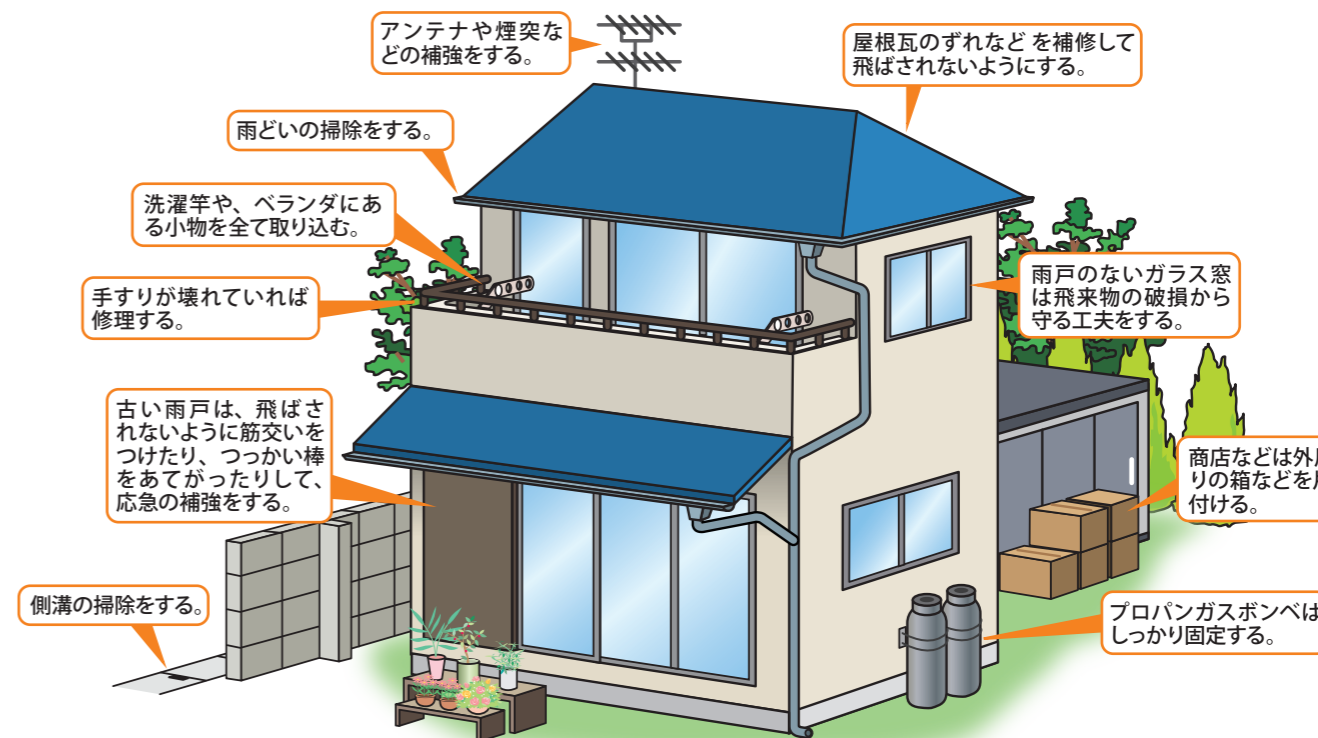
浸水深が膝の高さ(0.5m)以上になると大人でも歩行が難しく、避難行動が困難になります。浸水する前に早めの避難を心がけましょう。

車での避難は、渋滞や事故、緊急車両の妨げになる可能性があり、また避難の遅延や危険を招くおそれがあるので徒歩で避難しましょう。

0.5mの水深で大人でも避難が困難



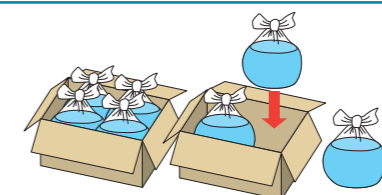
水害への備え



家でできる浸水対策



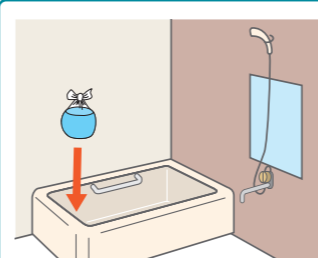
ごみ収集袋(45リットル)を二重にし、中に半分くらい水を入れ、水のうを作ります。



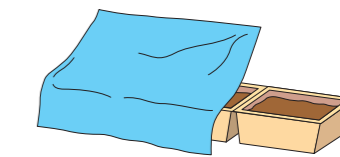
水のうは段ボール箱に詰めることで、強度が増します。



水のうと長めの板などを組み合わせて、浸水を防ぎます。

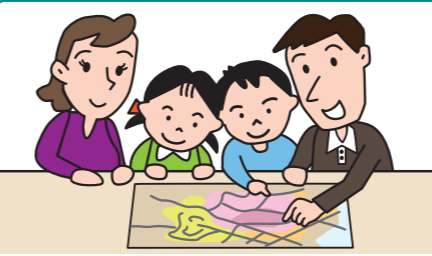


お風呂や洗濯機、トイレなどの排水口から逆流した水があふれる場合があります。水のうで栓をすることで防ぐことができます。

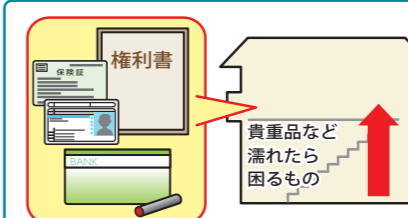


プランターをならべ、レジャーシートで包み浸水を防ぎます。

台風や大雨が予想される場合の浸水対策



ハザードマップで避難所や避難経路を調べて把握しておく。



貴重品や、普段使用する濡れてはいけぬものなど建物の2階以上、高いところへ置く。



浸水してもエンジン部分が浸からないようにする。